

「ともだちと いっしょ」

2-(3)友情・助け合い

1 題材名 「ともだちと いっしょ」

2 題材について



男女仲よく

低学年では、友達と一緒に活動する楽しさや友達の大切さに気付く学習を通して、男女差や個人差を認め合いながら、きまりを守ったり互いの気持ちや行動を考えたりすることが大切である。

ところが、実際には、男女が一緒に遊ぶことができなかつたり、自分中心の行動になることが多い。そこで本時では、紙芝居を通して、友達の立場や気持ちを意識しながら、男女一緒に仲良く遊ぶことのおよさやその方法を考える学習とした。

また、心のノートを有効に活用することを通して、性教育としての学習効果を高めることができるのではないかと考え、この題材を設定した。


3 目 標

友達と仲良くすることのおよさを見つめ直し、男女が互いの立場を尊重することや助け合っていくことの大切さに気付く。

4 教科、領域等の内容的関連

- (1) 学級活動 「男女の体の違い」
- (2) 生活 「大きくなった自分」

5 指導展開例

	教師のかかわり	子供の思考の流れ・学習活動	留意点
導 入	資料を読んでみよう。 友達と一緒になら、元気百倍、百万倍になるの？	友達は、自分にとって大切な存在であるということを感じ取る。 ・一緒に遊ぶと楽しいし、うれしい ・元気になるし、いろいろなことができる	・資料を提示することにより、学習意欲を高める。 (資料1 -)
	友達と一緒に活動すると、どんなよいことがあるのかな？ 	友達と一緒にいることのおよさを話し合う。 ・掃除を協力して、早く終わる ・給食がおいしくなる ・勉強で分からないことを教えたり、教えてもらったりする	・日常の場面から、友達と一緒に活動することのおよさを確認する。 (資料1 -)

男の子と女の子は、なぜ一緒に遊ばないのかな？

・体育は一緒にするけれど、休み時間は、あまり一緒に遊んでいない

一緒に遊ばない理由を話し合う。
・男子と女子は、好きな遊びが違う

・体育の授業と比較することから、日常の遊び方を際立たせる。

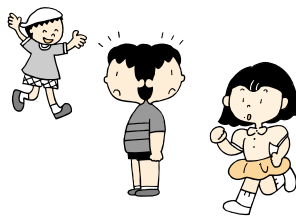
男の子と女の子が一緒に楽しく遊ぶ方法を考えよう。

紙芝居を見て、けん君が心配になった気持ちについて考えてみよう。

* 「けん君は、なぜ心配になったのかな？」(主要発問1)

けん君の気持ちを考える。

・男子と女子と一緒に遊ぶと、つまらなくなるかもしれない
・サッカーをしたいという女の子の気持ちは分かる

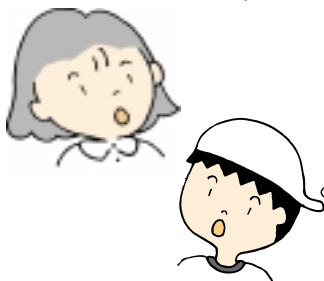


・けん君の気持ちを考えることを通して、日常の自分たちの遊びに目がいくようにする。
(資料2 -)

紙芝居の続きを見てみよう。自分がゆうさく君やひかるちゃんだったら、どうするかな？

* 「もし、自分だったらどうする？」(主要発問2)

ゆうさく君やひかるちゃんになったつもりで、楽しく遊ぶ方法を考え、交流する。



・いつもよりキックを弱くしよう
・たくさんパスを回すようにする
・速く走るように頑張る
・ボールが当たっても泣かないようにする

・資料を基に、それぞれの立場に立って、遊びを楽しむための工夫を考える。
(資料2 -)
・学習カード資料
(資料3)

けん君たちは、どうなったのかな？紙芝居を見てみよう。

友達と一緒に遊ぶよさを感じ取る。

・なるべくみんなで遊ぶようにした方がいいな

男女仲良く遊んだことを紹介しよう。

男女が上手に遊ぶことができたことを交流する。



・自分たちの遊びの経験を交流し、男女仲良く遊ぶよさに気付くようにする。

みんな一緒に楽しく遊ぶことができそうだ。男の子も女の子も、仲よくしていきたいな。

今日の学習で気付いたことや感じたことをカードに書こう。

学習の感想をカードに書く。



6 資 料

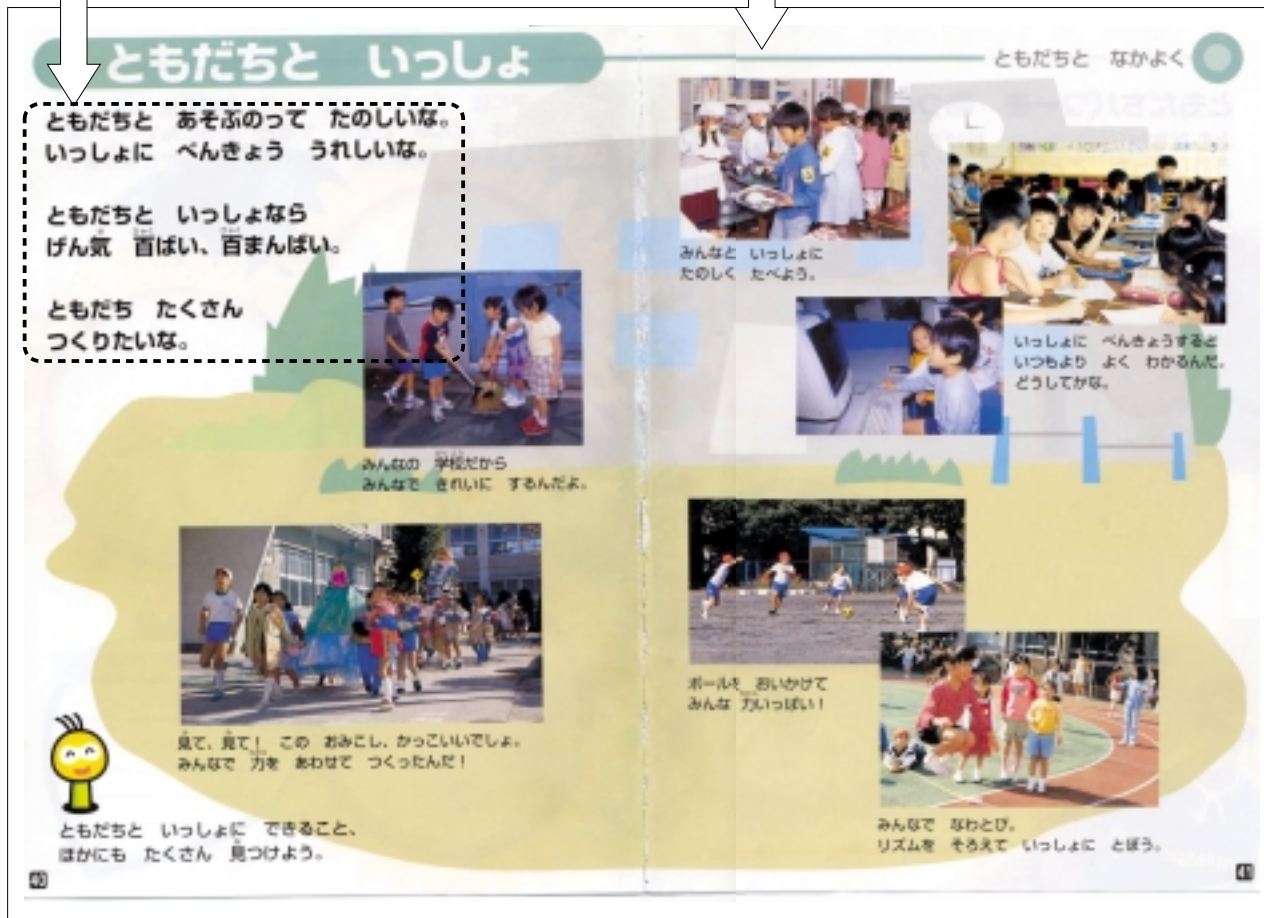
【資料1】読み物資料 (こころのノート 小学校1・2年 文部科学省 2005)

資料1-①

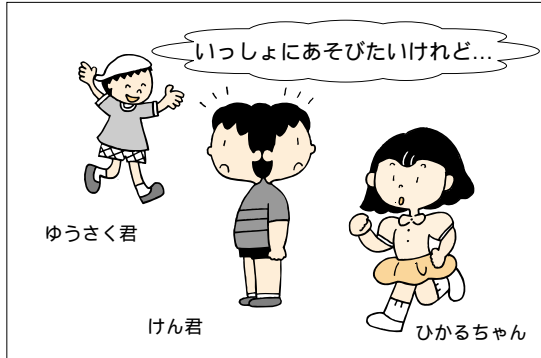
教師の音読から、友達のよさを感じ取る。

資料1-②

写真(7枚)や写真下部に掲載されている文章の音読から、友達と一緒にのよさを振り返る。



資料2-①



小学校2年生のけん君のお話です。ある日、けん君は、ゆうさく君からサッカーに誘われました。「けん君、中休みにサッカーのスーパーリーグをしようよ。」近くにいたひかるちゃんも、すぐにけん君に言いました。「ねえねえ、私も入れて！」ゆうさく君は、サッカーがとてもじょうずなのですが、ひかるちゃんは、あまりスポーツが得意ではありません。

「でも…」けん君は、みんなと一緒に遊びたいのですが、少し心配になってきました。

*主要発問1:「けん君は、なぜ心配になったのかな？」

資料2-②



けん君は、ゆうさく君とひかるちゃんに聞いてみることにしました。「男の子と女の子と一緒に、楽しくサッカーをする方法はないかな?」「ゆうさく君やひかるちゃんも、一緒に考えてよ。」

*主要発問2:「もし、自分だったらどうする?」

【資料3】学習カード資料

※ 友達を意識しながら、サッカーを楽しくするための工夫について考える。

資料2-③



中休み、ゆうさく君は、ボールを少し弱く蹴ったり、パスをひかるちゃんに多く回したりしました。ひかるちゃんは、転んだり、ボールがぶつかったりしても、頑張ってボールを追いかけてました。

休み時間が終わりました。「遊んでくれてありがとう。私ももっと上手になりたいな。」とひかるちゃんは言いました。「明日の休み時間、僕がみんなに教えてあげるよ。」と、突然、ゆうさく君が言いました。「え!ゆうさく君が?」みんなはびっくりしました。「だって、ひかるちゃんがあつて言ってくれたし…」

「男の子と女の子、みんな一緒に遊ぶのって、やっぱり楽しいな。」けん君も笑顔でいっぱいになりました。

ともだちと いっしょ

2ねん くみ なまえ

たのしくサッカーであそぶためにはどうすればいいのかな?

ゆうさく君だったら



ひかるちゃんだったら

